

芸能のムラ—野嵩—

野嵩ではムラアシビ(豊年祭)・綱引き・エイサー・アガリーボンボン・フェーヌシマ・クシユックイ・サングワチャー・モーアシビ等の



忠臣護佐丸

の民俗芸能が行われていました。

当時のムラの主導者たちは「アシビこそムラの繁栄とムラ人の健康に繋がるもの」と認識していたようです。演目は指導者たちの意識の高さと新しさを加える心掛けが合体して独自のものとなり、本島中部において群を抜くアシビの地域となりました。

戦中戦後の混乱期は伝統行事も途絶えましたが、復活された後は沖縄各地のムラアシビの決まりを正しく継承して、今日でも多くの特徴ある演目が自信と誇りを持って演じられています。



<野嵩で1948年に使われた蚊帳(かや)製の組踊衣装>

終戦後に復活したムラアシビは、多くの人々の心を癒し、生きる力と喜びを与えました。



■ 戦前の野嵩集落イメージ図

野嵩について

野嵩は宜野湾市東方の石灰岩台地上に位置し、方言で「ヌダキ」と言います。

1671(康熙10)年に宜野湾間切が設置される以前は中城間切の一部でした。

湧水は豊富でしたが水田は少なく、芋が主食でした。サトウキビ・サツマイモ・大豆・麦・粟・モチキビ等を輪作しながら、雌牛の飼育も盛んで肉牛として県外に移出していました。

開戦後すぐに民間人収容所として利用されたので大きな戦災は受けず、近世来の碁盤目状の区画をほぼ保っています。戦後の人口増加に伴い、1964(昭和39)年に野嵩一区(旧集落)・野嵩二区・野嵩三区が発足しました。

戦中戦後の混乱期には伝統行事も途絶えましたが、生活が安定した後、「ちなひちもうい」「ウチチウマチー」「マールアシビ」が復活され、野嵩一区自治会に受け継がれています。

■ 宜野湾市全域図



野嵩の位置

編集・発行/宜野湾市教育委員会文化課

〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-2
TEL.098-893-4430

編集協力/株式会社アートリンク

〒901-0146 沖縄県那覇市具志 3-17-22
TEL.098-894-5397

印刷/□□□□□□□□□□

〒000-0000 沖縄県〇〇〇〇〇〇-00-00
TEL.000-000-0000



ぬだき

野嵩歴史文化遺産マップ



収容所のあったムラ

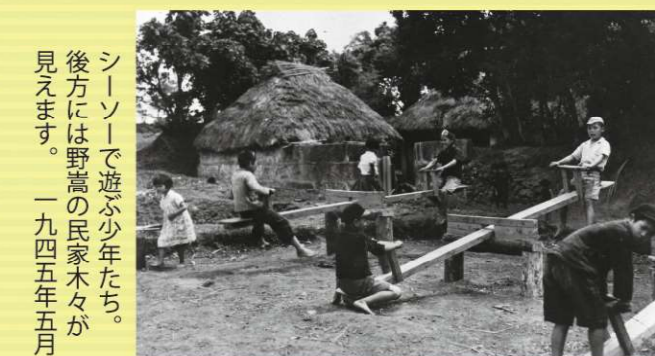
1945(昭和20)年4月1日に沖縄本島へ上陸した米軍は3日後、野嵩に民間人収容所を設置しました。戦時中は攻撃対象とされず、破壊を免れた民家の母屋をはじめ、家畜小屋に至るまで収容所として使われました。保護された民間人は一時期、野嵩で過ごした後に北部の収容所へ移送されました。戦況がすすむにつれ収容される民間人は増加し、ピーク時には1万人余の人々が暮らしていたといわれています。湧き水の豊富な野嵩でしたが、人が増えたことで水不足となり、真夜中から水汲みに並んだそうです。

米軍は民間人を保護するとともに、野山に放置された死体の埋葬や、伝染病予防の消毒作業などにもかりだしました。また、クシヌカー前の窪地にはコンクリートで造られた貯水槽があり、野戦病院から送られてくる負傷兵のシャツ、タオル、包帯、毛布などを洗濯させました。



洗濯をする女性たち。野嵩クシヌカーか? 一九四五年 <沖縄県公文書館 所蔵>

戦後、本島北部等の収容所から帰村した野嵩の住民は地元には戻れたものの、他市町村出身者や、戦前の居住地に戻れない宜野湾村民が住んでおり、すぐに元の住居に戻る事はできませんでした。また、村民の多くが野嵩・普天間地区に集中していたため、野嵩の民家を借りて村役場にし、戦後復興に取り組みました。



シーソーで遊ぶ少年たち。後方には野嵩の民家木々が見えます。一九四五年五月

野嵩 歴史文化遺産マップ



8 ミーガー跡

首里王府からの指令で新松川(屋号)の祖先が掘ったと伝えられています。水量は豊富で収容所時代にも多くの人々が利用しました。市道建設で埋め立てられ、現在は碑と祠が建てられています。



9 野嵩慰霊之塔

1977(昭和52)年12月に建立されました。この塔には戦没者307柱が祀られています。慰霊祭は毎年「慰霊の日」後の日曜日に行われています。



10 トウニムートウ

集落の守り神である天の神、地の神、龍宮の神が祀られており、旧暦8月15日のウチウマチーの際に祈願します。



1 ウガンヌカタ

集落の東の神であると言われ、旧暦8月15日のウチウマチーの際に祈願しました。行事の際には神酒をもらいにウガンヌカタへ行きました。



2 野嵩石畳道

琉球王国時代に整備された首里から中城間切への公道(宿道)の一部で、野嵩区から我謝橋までの高低差34m、長さ120mの急坂に造られた石畳道です。護佐丸と阿麻和利の戦いに由来をもつスティバナビラという別名も持ち、現在は約60mが残っています。市指定史跡です。



3 ハウスナンバー32

収容所を管理する米軍が付けた番号で、住所のような役割をはたしました。番号は163番までありましたが、現在は32番のみ残っています。



4 MP事務所として使われた家

MP(憲兵)隊事務所として使用されていた屋敷で、MP隊がよそへ移動すると警察署として利用されました。ヒンブンの上に米兵がビール瓶を置き、銃で撃って遊んだそうです。



5 野嵩クシヌカー

集落東側にある石積みのムラガーで、生活用水・ウブミジ(産水)・ワカミジ(若水)を汲む場所として人々の暮らしを支えてきました。収容所時代は単作業の洗濯場でした。市指定史跡です。



6 メーヌカー

集落南側にある石積みのムラガーで、生活用水・ウブミジ(産水)・ワカミジ(若水)を汲む場所として人々の暮らしを支えてきました。



11 根屋の拝所

集落に古くからある家の拝所です。マールアシビの際に祈願します。



12 ヌンドウンチ

野嵩ノロを輩出した家で、マールアシビ行列の出発地点。ヌンドウンチとその斜め向かいの東中加(屋号)の仏壇を拝んでから道ジュネーが始まりました。マールアシビの衣装や旗頭、ミルク(弥勒)等を管理していました。屋敷の東側にウカミヤ(御神屋)があります。

14 ちなみちもうい(ナカミチ)

もとは、旧暦6月の綱引きの際に、土気を高めるために踊っていた女性たちの踊りです。隊列を組み速いテンポで太鼓を打ち、歌を唄いながら足さばきで到るまで動作を合わせて踊るような例は他ムラにはほとんどなく、近隣から多くの人々が見物に訪れました。1991(平成3)年に復活させて以降は、ひとつの行事として現在まで継承されています。当日の夕方はテークドゥール(太鼓灯籠)を先頭に、銅鑼・ほら貝などの鳴り物、女性達と続いて道ジュネーを行い、かつて綱引きを行っていたナカミチの旧カナチグチ辺りで踊りを披露します。夜になると野嵩あしび庭で踊りを披露します。



マールアシビ(豊年祭)

子・午年の旧暦8月15日に、アシビナー(現在の「野嵩あしび庭」)で行われます。1860年頃から始まったと伝えられ、開催された年から数えて次に開催されるまで7年あることから、「シチネンマール(7年廻る)」「マールシ」とも呼ばれています。当日は祈願を終えた後、道ジュネーを行い、舞台上では組踊や歌劇等様々な舞踊が披露されました。かつては男性のみの配役でしたが、現在は女性も参加し盛大に開催されています。



※ 15 16 18 は、現存していません。

※ 私有地にある場合もありますので、見学の際は注意しましょう。



15 タキジョウガマ

大人の目線ほどの高さまでアーチ型の石積みが見られる入り口を、少し下りると横穴になっていました。周囲から雨水が流れ込みましたが、戦時中にはクシダカリ(後村梁)の避難壕として利用されました。

13 地頭火の神

地域の方によると、この地頭火の神は各家庭に祀られている火の神と同じで、野嵩集落の火の神を祀っているそうです。以前はトウグワグムイに隣接していました。

16 ターバルガマ

タキジョウガマよりも広く、長さ 1,300m もありました。中は地下水が流れ湿度が高かったため、若い女性はガマの中でバナ帽を編みました。また、村芝居の練習ははじめガマで行い、上手くなってからムラヤ(村屋)で行ったそうです。戦時中にはメンダカリ(前村梁)の避難壕として利用されました。



17 野嵩タマタ原遺跡

ブスク時代から現代までの継続した畑跡が確認されました。小さい穴が列状で等間隔に並ぶ様子から、穀類の種を蒔く穴かイモなどの作物を植える時の耕作痕だと考えられます。

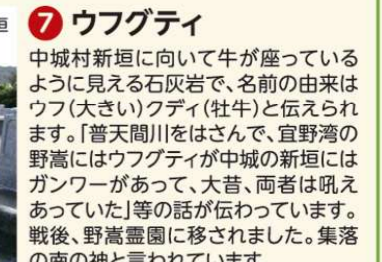
18 野嵩上後原古墓群

近世から戦後まで使用された古墓群で堀込墓や亀甲墓が混在しています。織布片の付着した針の束が見つかるなど、チンダンブルの証明となる出土品もありました。※チンダンブル: 銭貨と束にした縫い針を小さな袋に入れて副葬品とするもの。「シマの話」佐喜真興典著にも記載あり。



7 ウフグティ

中城村新垣に向いて牛が座っているように見える石灰岩で、名前の由来はウフ(大きい)グティ(牡牛)と伝えられます。「普天間川をはさんで、宜野湾の野嵩にはウフグティが中城の新垣にはガンワアがあって、大昔、両者は吼えあっていた」等の話が伝わっています。戦後、野嵩霊園に移されました。集落の南の神とされています。



19 イーヌタキ

集落西側の山頂にある拝所で集落の北の神とされています。1982(昭和57)年の改修でコンクリート製の祠が建てられました。マールアシビの前には出演者がイーヌモーに上って歌い、ムラヤまで声が届くかを調べて配役を決めるピーシラビ(声調べ)が行われました。



20 ビンジリの拝所

集落の西の神であると言われてます。元は山林でしたが普天間飛行場の建設用に採石され、大きな窪地となりました。埋め土をして平らにし、現在は駐車場となっています。